

令和2年度学校評価結果

		段階(4:よくできた、3:できた、2:あまりできなかった、1:できなかった) ※学校全体できているかを評価(教員31名実施)										学校評議員の意見		
領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	今年度平均	昨年度平均	増減	今年度回答						令和2年度の振り返り(成果・課題)・令和3年度に向けての改善策
								4	3	2	1			
学校運営	学校運営全般	校務分掌における取組み	1	各分掌の重点目標を設定し、取組みについて評価・見直しを行う。	3.32	3.28	0.04	11	19	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・学年と部が連携をし、特に生徒指導、進路指導部と緊密に連絡を取り合い、生徒の指導を個別に行うことができた。 ・学習指導、進路指導において、個に応じた適切な対応ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の振り返りがしっかりとできており、次年度に向けての改善策が示されているので、それによって、学校運営がよい方向に進むことを期待する。 ・連携がしっかりとできて取り組んでいる所は良い。 ・各分掌が設定した重点目標と評価、見直しの見える化を望む。 	
		開かれた学校づくり	2	懇談会・面談・学年通信等の発行を行うなど、家庭との連絡を密にする。ホームページを充実させ、地域への情報発信を行う。	3.55	3.63	-0.08	18	12	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信・学級通信の発行を、例年より多く行った。(1年) ・1学年懇談会をコロナ対策として1・2組と3・4組という2部に分けて行ったが、来年度以降の1年生は、可能なら1～3組と4組という分け方のほうが効果的な話ができると思う。 ・学年懇談会をα類型とβ類型+コースの2グループに分けて行った。今後も進路別等、グループでの実施を検討してはどうか。 ・今年度は、新型コロナウイルスの影響で、類型別に学年懇談会を開催し、細分化することで、個別に重要点を伝えることができた。また、夏季の3者面談等を行い、秋以降の進路の準備に向けて具体的に話を進め、確認することができた。 ・HPの更新を行い、発信しやすい形に改めた。新型コロナウイルス感染症に絡む様々な変更や学校生活の様子が発信しやすく更新できたが部活動のページの更新が課題である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で家庭との連携、情報発信に努め、成果を上げられている事に敬意を表する。 ・コロナ対策の中から出てきた様々な意見をよりよく生かして欲しい。 ・懇談会、面接の機会を増やすと、生徒、保護者の意識が向上していくので、学校側の対策を充実していくことを望む。 ・コロナの影響が大きい中ではあるが大切な教育活動として地域貢献に取り組んで頂いた。地域貢献は生徒の自尊心や自主性を育て、社会の一員としての生き方にもつながる教育の視点として、引き続き取り組んでほしい。コロナ禍における新たな地域貢献の方法にも期待している。
		地域貢献	3	親睦会、ふれあいコンサート、音楽に力を入れる中、家庭との連絡を密にする。ホームページを充実させ、地域への情報発信を行う。	2.90	3.78	-0.88	6	16	9	0	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、藤巻会は、中止。たそがれコンサートは、感染対策を行い実施することができた。教師と生徒の連携も良好であった。 ・コロナの影響による制約がありながらも、たそがれコンサートや募金活動など、可能な範囲で活動を実施することができた。 		
	生徒指導	生徒の自主活動領域の拡大を図る取組	4	生徒会や委員会の自主的な活動・取り組みを進展させ自立の意識を高める。	3.03	3.13	-0.09	4	24	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部の生徒を中心に、創立100周年記念式典をはじめとする学校行事等の様々な場面で、生徒の積極的な取り組みが見られた。 ・実施ができた体育祭では、限定した中であったが、生徒たちが学年演技や他の競技に熱心に自ら取り組む姿勢が見られた。 ・例年よりも活動機会が減ってしまったが、可能な範囲で活動できた。生徒の自主的な取り組みについては、まだまだ改善の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創立100周年記念式典では、生徒たちの元気で礼儀正しい姿がとても印象に残っている。 ・創立100周年事業における生徒、先生方の活発な関わりを見ることができた。 ・進名高校の教育の根拠には、「すべての生徒の夢の実現に向けた一人ひとりを大切に指導」があると感じる。 ・生徒理解を深めるために、人手、時間が不足していることがあげられていたが、来年度の改善に向けた方策を求める。 	
		校則を遵守し、マナーを向上させる取組	5	生徒の校則に対する意識を向上させ、自律的に守れるようにする。保護者と共通理解を深め、協力を得る。社会のルールや交通マナーを守り、健康・安全に生活を送れるように努める。	3.16	3.28	-0.12	10	17	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後のガイダンスが十分に行えなかったため、校則の周知が不十分であった。 ・服装や髪型などで軽微な校則違反が見られた。 ・普段、服装や学校での生活について、それほど目立つことはないが、機会をとらえて社会ルールや交通マナーなど、常に意識を向けよう継続的に指導していく必要があると感じている。 ・近隣店舗や駐車場でマナーなどについて、地域からの苦情もあり、高校生としての自律的な姿勢の育成が必要であると感じた。 		
		生徒理解を深め教育活動に生かす取組	6	カウンセリングマインドをもって生徒と接し、面談機会を十分に設定し、内面的理解をはかる。	3.39	3.50	-0.11	13	17	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮やケアが必要な生徒が増えてきているが、学年と連携し、うまく対応することができた。情報交換や職員研修の機会を増やすことができればよいが、人手や時間が不足しているように思う。 		
	進路指導	進路指導体制の充実	7	進路指導部と各学年が連携をとり、組織的に進路指導を進める。	3.58	3.66	-0.08	18	13	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期以降に進路意識を高める取り組みを行ったが、1学期にもその機会を設けたほうがよい。 ・オープンキャンパス等への参加が難しかったため、講義動画サービス等を活用し、学間に触れる機会を設けた。キャリアガイダンスを通じて様々な職業について考え、より具体的に進路にむけて少しずつ準備を始めている。 ・本年度は、進路指導部と緊密に連携して、進学、就職に向けての準備をすすめることができた。特に、面談や面接、論文など細部にわたり、指導を受けて、行うことができた。 ・各学年と連携し、進路指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい時代の初等中等教育「令和の日本型学校教育」の構築が求められている中、高等教育も含めて教育の大転換期である。その様な大変な中であるが全ての生徒の適正な進路実現に向けてより一層の取組をお願いしたい。 ・進路意識を高める環境を向上する策を充実させてほしい。 	
		進路意識の向上	8	進路学習・ガイダンスを推進し、進路意識を向上させる。	3.32	3.44	-0.11	13	15	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で予定していたガイダンスを取りやめたものもある。 		
	教職員の資質向上	計画性をもった研修の実施	9	教職員が研究授業や研修を行い、授業改善、学校の諸課題についての解決能力など実践的指導力の向上に努める。	3.13	2.91	0.22	10	15	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストの実施を受け、その内容を分析し、次年度に向けて指導内容や授業展開を研究していく必要がある。 ・ICTやタブレットを使った授業展開や、遠隔授業を今後さらに研修を重ね、学校全体で取り組むことができる環境を整備できればと考えている。 ・昨年と比べて、研究授業を多く実施することができた。教員同士の意見交換の機会を増やし、授業研究の深まりを求めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防に配慮した授業の研究や工夫が熱心になされている。 ・2022年度からの新学習指導要領の導入に向けた研修を計画的にお願いする。 ・共通テストのねらいに合わせた取組、実践が必要である。 	
		読書啓発	10	「朝の読書運動」を通じて、生徒の心豊かな人間性、思考力、想像力、言語力などの育成をはかる。	3.45	3.56	-0.11	15	15	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生において、オリエンテーションや読書指導を行う機会がなく、図書館利用者が減少するのではないかと心配したが、学年の先生方のご尽力等により利用者は増加した。読書に対する関心・意欲をさらに向上させるにはこれまで同様に読書指導を行う必要がある。 		
教育課程	自ら学び考える力を育成する取組	総合的な探究の時間	11	総合的な学習の時間を通じて、自ら学び考える力や、探究活動に主体的に取り組む態度を育てる。	3.23	3.50	-0.27	12	15	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・Reborn Projectおよび課題研究では、地域社会の課題や理学的な分野に注目し、グループで課題に取り組みさせる等、主体的な取り組みを重視して指導した。 ・昨年度の2年時に行ったReborn Projectや理学的な探究活動は、3年時の受験の際に、総合学習を行ったアピールポイントとして、非常に重要な位置を占めていると再確認した。探究活動や自主的に進めたことが、生徒に良い影響を及ぼしているため、今後推し進めてさらにもっと進めたいと考えている。 ・個人の興味・関心に応じて主体的に取り組んでいた。 ・コロナの影響による制限がありながら、Reborn Projectや理学的な課題研究では可能な範囲で取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Reborn Projectおよび課題研究を中心とした大学ゼミのような少人数指導の授業機会を設け、国語力やプレゼンテーションの技術、探究力の強化等を図れるような、柔軟なカリキュラム運営ができるとよい。 ・総合学習、Reborn Projectは、生徒と社会をつなぐという重要な学びとなっているので、コロナ禍での実践は難しいがこれからも大切にしていきたい。 ・新学習指導要領ではカリキュラムマネジメントの確立が求められているので、引き続きお願いしたい。 ・自分で買って本を読むという本来の態度を身に付けてほしい。 ・主体的取組を評価する。発表力の向上を期待する。学力差に対する個別指導の継続、評価と取組を期待する。 	
		体験的・問題解決学習	12	各教科において体験的・問題解決的な学習を展開する。	3.00	3.00	0.00	6	20	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学習とともに、各教科においても、現在必要とされている能力を育てるのに、学習形態や内容を確立し、さらにもっと進めたいと考えている。 ・Reborn Projectにおいて、自ら問題解決に取り組んだ。 ・研究授業等の機会に、体験的・問題解決的な学習を実践し、意見交換ができた。そのような機会をさらに増やしていく。 		
		適切なカリキュラムの作成	13	生徒の興味関心と進路に対応した適切なカリキュラムを作成する。	3.10	2.97	0.13	6	22	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・例年以上に生徒の学力差が大きく、カリキュラム・クラス分けなど思い切った対策が必要かもしれない。 ・3学年では、選択教科を多く設定し、進路に合わせて学習できる環境を用意している。総合学習において今年度は新規にキャリアガイダンスを設定し、進路に即した様々な内容に取り組むことができた。 ・個に応じたきめ細かなカリキュラム編成ができた。さらに新学習指導要領に円滑に移行できるように適切なカリキュラムを検討していく。 		
	基礎・基本の定着	授業計画の作成	14	年度当初に各教科で基礎・基本の定着を図る授業計画の作成と取り組みを行う。	3.26	2.97	0.29	10	19	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を精選し、より効率的な授業展開を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、教員が工夫して、家庭学習の習慣づけができていくことはよい傾向である。さらに、学習習慣を充実させて欲しい。 ・アクティブラーニングと家庭学習、将来の目標を見通すキャリア教育など、それぞれが相乗効果を生み出す事が予想される。引き続き、総合的な指導をお願いする。 ・生徒の予習、復習の徹底、継続をチェックするノート作りをしてほしい。 	
		指導形態の工夫	15	習熟度別授業、少人数授業を充実させ、個に応じた学習指導を行う。	3.19	3.13	0.07	11	15	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力に応じたきめ細かな授業を目指す。1年時後半は、類型選択と連動した少人数指導を目指す。 		
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	17	生徒・職員の防災訓練、救急救命講習を行い実践的な安全教育を実施する。学校の実情に応じた「警備及び防災マニュアル」を作成し、定期的に対応訓練を行う。	3.19	3.34	-0.15	10	18	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練では、ハザードマップを活用し、通学路における危険な場所、避難所や避難経路を確認した。また、学校内での避難経路を確認するとともに避難時の心得も確認した。消火栓ホースや消火器を使った消火訓練を実施していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず起こるだろうとされている南海、東南海地震から命を守る取組を引き続きお願いする。 	
		人権教育の推進	18	ホームルーム活動、教科指導、学校行事等を通して、あらゆる方面で人権教育・道徳教育を推進する。	3.23	3.03	0.19	10	18	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を踏まえながら、正しい人権意識、人権感覚を持たせ、自他の人権を尊重する人間性豊かな生徒を育成する取り組みができた。 		
	設備・機器の利用	19	図書館を利用した調べ学習、コンピュータ、AV機器を利用した視聴覚教育等、指導方法の工夫・改善につとめる。	3.16	3.16	0.01	9	18	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・急速なICT環境の整備に対し、利用できるコンテンツの整備が追いついていない。デジタル教材の整備を進めるとともに、タブレットPCの活用法等の職員研修を充実させる必要がある。 			
	学校特色化	20	大学や研究機関との連携を深め、教科や進路についての理解を深めるとともに、学力向上を目指した取り組みを行う。	3.30	3.38	-0.08	12	15	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響を受ける中、Reborn Projectやインスパイアハイスクール事業等で、可能な範囲で実施することができた。 			
全体				3.22	3.28	-0.06					<ul style="list-style-type: none"> ・2カ月遅れで学年がスタートしたが、その後、6月開始直後の授業や夏季の予定を調整することで、生徒が進路に向けて準備できる環境を優先していただいたのはとても有難かった。また、進路に向けて適切な指導を進路指導部と連携して行い、個々の生徒の状況を判断し、進路に向けて準備を行うことができた。 ・万一体校になった場合、生徒とのやり取りや連絡ができるように、特に3年生では、学年当初の動きが後半に影響がでてくるので、遠隔で相談ができるなどの環境を整備できればと考える。しかし、スタディサプリやGoogle Classroomを導入したおかげで、HR担任や教科担当が生徒に個別に連絡指導ができるようになったことは、有益であった。 ・コロナ感染予防対策として、パーティションの設置、紫外線による本の殺菌消毒等可能な限り館内の対策ができた。次年度もこのような状況下であれば、引き続き対策をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、安心安全な学校運営により取組まれ、着実に成果を上げている点は高く評価できる。 ・今後も、高校での総合的な探究の時間の先駆者として、次のステージをめざして、より一層頑張ってもらいたい。 ・コロナ禍の中、英知を結集しながら教育活動を推進できていた。できなかった事や失ったものもあるが新たに気づかされた事、できるようになった事も多い。それらを大切にしながらさらに教育を前進させていくことを願う。 ・オンラインの取組が急がれる。 ・全体に言えることだが、少なくとも生徒の意見が欲しい。アンケート等の手段で実施して次年度に反映させていく方がより良い学校になる。 		